

平成28年度 事業報告書

社会福祉法人せたがや檜の木会

所在地：東京都世田谷区代田1-29-5

電話：03(5481)1010

FAX：03(5787)4051

設立年月日：平成14年2月28日

—目 次—

* 基本理念・経営方針・行動指針

* 法人ミッション・サブミッション・ゴール

1	法人概要	1
2	役員構成	1
3	職員配置	1
4	利用者状況	2
5	事業実績	2
6	規程類の制定及び改正	4
7	理事会・評議員会の開催状況	4
8	委員会等の開催状況	5
9	その他	8
10	事業別報告	8

- ・ 世田谷区立千歳台福祉園
- ・ 世田谷区立下馬福祉工房
- ・ わくわく祖師谷
- ・ 大原福祉作業所
- ・ 上町工房
- ・ どんぐりホーム上町・短期入所どんぐりホーム上町
- ・ 上町工房分場喜多見福祉作業所
- ・ 用賀福祉作業所
- ・ ヘルパーステーション樫の木
- ・ プレイ&リズム希望丘
- ・ 相談支援センターあい

社会福祉法人せたがや櫨の木会

基本理念

(社会福祉法人せたがや櫨の木会は)

1. 利用者の人権を尊重し、利用者と信頼関係を構築していく。
2. 利用者の主体性を尊重しながら、利用者の自立生活と社会参加を支援していく。
3. 利用者が地域社会の構成員であることを認識し、利用者の支援を通して地域福祉の推進に寄与していく。

経営方針

(事業経営にあたって)

1. 世田谷区手をつなぐ親の会と緊密に連携し、事業の着実な展開を図る。
2. 利用者の期待を超えるサービスの創出に努め、質の高いサービスを提供し続ける。
3. 創造性と専門性に富む人材の育成と活力ある明るい職場造りに努める。
4. 事業経営の透明化に努めるとともに、中長期的な経営戦略に基づく経営基盤の強化を図る。

行動指針

(サービス提供にあたって)

1. 利用者と全人格的な交流に努め、利用者と支援者が共に成長していく。
2. 利用者の安全と安心に配慮するとともに、利用者の個性と意思を最大限に尊重したサービス提供に努める。
3. 高い目標を設定し、不断の研究とチームワークによって、その実現にチャレンジし続ける。
4. 社会福祉事業の従事者に相応しい使命感と倫理性を保持する。

社会福祉法人せたがや櫨の木会
事業運営理念 (Mission Statement)

法人 ミッション

私たちは、世田谷区の障害児・者が
住み慣れた地域で、安心して自立生活を続けられるよう
質の高い福祉サービスを提供し支援します

サブミッション

千歳台福祉園	「利用者が安心して活動できる場を提供するとともに、本人主体のサービスの質の向上に努めます」
下馬福祉工房	「利用者が主体的に、より充実した生活を送れるように支援します。」
わくわく祖師谷	「本人の意思を尊重し、地域の一員として安心して暮らせるように支援します」 「地域の利点をを活かし、ネットワーク構築に努めます」 「多機能の利点を活かした活動をしていきます」
大原福祉作業所	私たちは、利用者ひとりひとりのニーズを把握し、働くことに誇りを持ち楽しく生活できるようにサービスを提供し支援します。
上町工房	「働くこと」を通じて、仲間と共に充実した生活を送れるよう支援します。
喜多見福祉作業所	少人数ならではの深い関わりの中で、共に働きながら、利用者が自分らしく生活していけるよう支援します。
用賀福祉作業所	利用者一人ひとりのニーズに配慮し、地域で、安心して働き続けられるよう必要な就労支援サービスを提供し、支援の質の向上及び充実に努めます。
ヘルパーステーション 櫨の木	契約者とご家族が安心して生活を送れるよう、通所施設・学校・行政などとの連携を取りながら総合的に関わるサービスを目指し、世田谷で、我が家で、自分らしい生活を送ることを支援します。
プレイ&リズム 希望丘	私たちは、発達支援が必要な子どもとその家族が安心して生活できるよう、子ども一人ひとりの成長を支援します。
相談支援センター あい	地域生活に根ざした環境の中で、利用者の思い描く安心、安全で自立した生活を支援します。 保護者の意向を踏まえ、利用者の意思決定に基づく、安心、安全で自立した生活を支援します。
どんぐりホーム 上町	利用者ひとりひとりが、安心でき、安全で楽しい住居を提供し、住み慣れた世田谷で自分らしく暮らしつづけていける生活をしていけるよう支援します。

社会福祉法人せたがや榎の木会
事業運営理念(Mission Statement)

ゴール(短期目標)	
千歳台福祉園	<ul style="list-style-type: none"> ・「障害特性を理解して、適切な配慮のできる実践力を高めます」 ・「個別性の充足を図り、社会性の豊かさにつなげる支援をします」
下馬福祉工房	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者の思いを受け止め、肯定的な関わりを通して、自己肯定感が育つ土壌を作ります。 ② 働くこと楽しむことを通して、利用者が力を発揮し、仲間と共に充実感を得られるような活動を提供します。 ③ 利用者の地域参加及び外来者の受け入れを通して、社会に貢献します。
わくわく祖師谷	<ul style="list-style-type: none"> ①生活介護 <ul style="list-style-type: none"> ・既存のサービス内容を定着させるとともに人材育成に努める。 ・社会参加の機会を増やす。 ・健康の維持、増進のためのプログラムを充実させる。 ・一人一人に合った作業、創作活動を提供する。 ②就労継続支援B型 <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して安心して作業を提供し、充実した生活が送れるように支援します。 ・健康の維持、増進のため支援を行なう。 ・多様な余暇活動支援を提供します。
大原福祉作業所	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者誰もが出来る作業種目の確保と受注開拓をします。 ・工賃確保のために、自主生産品の販路拡大、新商品の開発と定着を目指します。 ・年間平均工賃支給額20,000円を目指します。 ・利用者の生活が充実するように、多様な活動・行事等を行います。 ・利用者の障がい特性を理解するために研修への参加や知識習得を目指し、ニーズ把握に生かします。
上町工房	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くこと」が喜びや生きがいとなる、本人主体の暮らしを提供する。 ・充実した作業活動に向けて、作業種の検討を積極的にすすめる。 ・個々の幸せを実現する基本を対人関係の「誠実さ」と捉え、職員相互の点検でより良い質を求める。
喜多見福祉作業所	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に二者面談を行い、利用者の自己表現力並びに職員の支援力を高める。 ・「クッキーでみんなとつながろう」をスローガンに、身近な地域で焼き菓子を販売し、障害理解を促進する。 ・作業環境の整備及び新規利用者の受け入れのため、本場化に向けて取り組む。
用賀福祉作業所	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者がある持ち味を生かして取り組むことができる受託作業を提供する。 ・自主生産品の新商品の開拓と販売強化を行う。 ・利用者の作業技術向上のため、工夫・研究・知識を習得する。 ・特に挨拶・報告に重点をおいて基本的なマナーを身につけるよう支援する。

社会福祉法人せたがや榎の木会
事業運営理念(Mission Statement)

ゴール(短期目標)							
ヘルパーステーション 榎の木	<p>①安定した派遣体制を築く為にヘルパーの確保は必要で、かつ主体的に支援を提供している知的障害児者支援に特化したヘルパーを養成します。</p> <p>②めまぐるしく変わる福祉制度に十分に対応できるよう諸制度を把握し、契約者やご家族からの相談に適切に応えられるようにしていく。</p> <p>③利用者の障害特性やニーズに即したサービス提供をするために、研修などに積極的に参加し、職員一人一人のスキルアップを図っていく。</p> <p>④利用者に適切な支援を提供していくためには、関係事業者間での情報共有、支援方針の統一などが必要なことから、他事業者との連携を図り、利用者に最適な支援を提供できるよう努めていく。</p>						
プレイ&リズム 希望丘	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">共通</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもに愛情を持って接し、子ども達の居場所となる暖かいサービスを提供する。 ・人間の、もともと大切な時間の支援であることを常に心に留め、職員を一人ひとりが自己研鑽に努める。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">児発</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階に合わせた療育プログラムを日々研究し、提供する。 ・待機児童をなくし、子どもとその家族が必要な時に適時な支援を提供する。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">放課後</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「プレイリズムがあつて良かった」と思われるような豊かで楽しいプログラムを日々研究し、提供する。 ・保護者・学校との連携を強化し、子どもの生活全体を捉えた支援を行う。 ・外出機会を増やし、子ども達の社会参加を支援していく。 </td> </tr> </table>	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもに愛情を持って接し、子ども達の居場所となる暖かいサービスを提供する。 ・人間の、もともと大切な時間の支援であることを常に心に留め、職員を一人ひとりが自己研鑽に努める。 	児発	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階に合わせた療育プログラムを日々研究し、提供する。 ・待機児童をなくし、子どもとその家族が必要な時に適時な支援を提供する。 	放課後	<ul style="list-style-type: none"> ・「プレイリズムがあつて良かった」と思われるような豊かで楽しいプログラムを日々研究し、提供する。 ・保護者・学校との連携を強化し、子どもの生活全体を捉えた支援を行う。 ・外出機会を増やし、子ども達の社会参加を支援していく。
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもに愛情を持って接し、子ども達の居場所となる暖かいサービスを提供する。 ・人間の、もともと大切な時間の支援であることを常に心に留め、職員を一人ひとりが自己研鑽に努める。 						
児発	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階に合わせた療育プログラムを日々研究し、提供する。 ・待機児童をなくし、子どもとその家族が必要な時に適時な支援を提供する。 						
放課後	<ul style="list-style-type: none"> ・「プレイリズムがあつて良かった」と思われるような豊かで楽しいプログラムを日々研究し、提供する。 ・保護者・学校との連携を強化し、子どもの生活全体を捉えた支援を行う。 ・外出機会を増やし、子ども達の社会参加を支援していく。 						
相談支援センター あい	<p>①利用者が望む生活の計画案を共に作り、モニタリングを行いながら随時変化する生活スタイルに合わせた計画に更新していく。</p> <p>②利用者の望む社会資源の調整を行い、サービスの提供に繋げる。事業所間の連携を密に取り、チームで利用者の生活を支援する。</p> <p>③利用者がサービスの選択を出来るような情報提供及び助言を行う。</p>						
どんぐりホーム上町	<ul style="list-style-type: none"> ・運営面・経営面全てにおいて健全な事業所運営を目指す。 ・利用者満足度を向上させ、事故・苦情0を目指す。 ・支援員の育成を進め、短期入所の利用率の向上を目指す。 ・報連相を徹底し、変則交代勤務による伝達ミス0を目指す。 						
本部事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所との連携を密にして事務の効率化を図り、法人の経営改善に努める。 ・職員がやりがいを持って仕事に取り組めるよう、総合的な人事制度の構築に取り組む。 ・新規事業の遂行が円滑に進むよう支援する。 						

1. 法人概要

名 称	社会福祉法人せたがや櫛の木会
所 在 地	世田谷区代田一丁目29番5号
設立年月日	平成14年2月28日

2. 役員構成

区 分	定 数	学識経験者	地域の 福祉関係者	施設長	財務諸表が 読める者	地域の代表	その他	合 計
理 事	9	2	3	4				9
監 事	2	1			1			2
評議員	19	2	6	6		1	4	19
合 計	30	5	9	10	1	1	4	30

3. 職員配置

	事務局	千歳台福祉園	下馬福祉工房	わくわく祖師谷(生)	わくわく祖師谷(B)	大原福祉作業所	上町工房	どんぐりホーム上町	喜多見福祉作業所	用賀福祉作業所	ヘルパーステーション櫛の木	プレイ&リズム希望丘	相談支援センターあい	合 計
事務局長	①													①
施設長・所長		1	1	1		1	1	(1)	1	1	(1)	1	(1)	8 (3)
主 任	1	2	1	1	1	1	1	1		1	1		1	12
支援員・指導員 相談員・世話人	1	15 ⑦	8 ①	10 ②	7 ⑦	5 ②	4	1 ⑪	2 ⑥	2 ③	1 ③	5 ⑫	①	61 ⑤⑤
(常勤換算)	—	21	8.4	11.6	11.0	6.2	4	—	4.6	4.3	—	—	—	
事 務 員	2	1	1	1 ①		①		①	①				(1)	5 ④
看 護 師	②	②	①	(2)		(1)	(1)		(1)	(1)				⑤ (2)
栄 養 士		①	①											②
登録ヘルパー											100			100
休 職 者											1		1	2
合 計 (登録ヘルパーを除く)	4 ③	19 ⑩	11 ③	21 ⑩ (2)		7 ③ (1)	6 ① (1)	2 ⑪ (1)	3 ⑦ (1)	4 ③ (1)	3 ③ (1)	6 ⑫	2 ① (1)	88 ⑥⑦ (5)

○は非常勤職員の数、()は兼務の数

4. 利用者状況

	千歳台福祉園		下馬福祉工房		わくわく祖師谷		大原福祉作業所		上町工房		喜多見福祉作業所		用賀福祉作業所		どんぐりホーム上町		プレイ&リズム希望丘		ヘルパーステーション榎の木	相談支援センターあい	合計	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	登録	登録	登録	定員	現員
生活介護	45	48			20	24															65	72
就労継続B型			35	35	40	43	31	31	25	23	15	17	22	22							168	171
共同生活援助 短期入所														5	5						5	5
児童発達 放課後等デイ																	20	20	61			
居宅介護 移動支援																			14	125		
相談支援 児童相談 居宅介護																					187	111
計	45	48	35	35	60	67	31	31	25	23	15	17	22	22	5	5	20	81	126	198	238	248

5. 事業実績

世界保健機構（WHO）が2001年に発表したICFモデルや、平成28年4月1日に施行された障害者差別解消法などからも読み取れるように、時代と共に障害観も大きく変わりつつあり、せたがや榎の木会でも、現在の障害についての考え方を法人運営に反映させ、利用者サービスの質の向上につなげることを目的として、「人権」「支えあい」「共生」「地域貢献」「インクルージョン」などのキーワードを基に、法人ミッションの見直しを行った。

また、平成29年4月1日施行の社会福祉法人制度改革に伴い定款変更を行うとともに、理事会・評議員会、経営企画会議、事業所連絡会等において、法人の目指すべき方向や諸課題等について検討を行い、以下のとおり事業の充実を図った。

(1) 人材育成を目的とした人事制度の導入とミッションの見直し

時代と共に変容してきた現在の障害観を反映させ、より利用者の方々に沿ったサービス提供の実現を目指して、人事考課制度及び研修制度の基本となる法人ミッションの見直しを行った。また、倫理綱領に基づく行動規範の作成に着手するなど、利用者サービスの質の向上に向けた取り組みを行った。

《新ミッション》

一人ひとりの思いに寄り添い ともに人として支えあい
誰もが自分らしく生きられる 地域づくりを目指します

人材育成を目的として平成26年度より2年間の試行を実施してきた人事考課制度は、平成28年度より本格導入することとなった。

制度の目的や評価の意義を確認し、適正な運用を行うことを目的として考課者研修を実施するとともに、人事制度検討委員会において制度の検証を行い、運用上の問題点について検討を行った。

人事考課制度と並行して整備を行った研修制度については、研修実施要項及び年間計画に基づいて階層別研修を企画し、法人内職員を講師として初級職研修及び中堅職研修、理事長を講師として主任職級研修及び管理職級研修を実施した。また、平成 29 年度に実施予定の実践報告会の前段として、全事業所によるパワーポイントを使った「事業所紹介」を行うとともに、職員育成を目的とした OJT の推進に取り組んだ。

(2) 社会福祉法人制度改革への対応と法人経営の適正化推進

平成 29 年 4 月 1 日施行の社会福祉法人制度改革により経営組織のあり方が大きく変わることとなり、執行機関としての理事会及び議決機関としての評議員会という役割の変更に向けて、評議員選任・解任委員会の設置や理事及び評議員の定数変更など、定款変更を含む制度改革への対応を行った。2 月には、初めて評議員選任・解任委員会による新評議員の選任を行った。

また、現行制度上の報酬単価の制約により経常収支について赤字が生じる事業や本部への繰入金について検討を行い、法人本部による法人全体の財務管理強化への取り組みと併せて、事業所から本部への資金繰入の方法について見直しを行った。

(3) 防災対策及びリスクマネジメントの実践

リスクマネジメントにおける課題について、過年度までは全事業所所属長で検討を行ってきたが、平成 28 年度はリスクマネジメント委員会を再編し、各事業所の事故・苦情・ヒヤリハットについての報告様式を整備した。さらに、第三者委員会での報告方法を見直し、事例分析を行うなど、法人としてリスク管理について検討を行い、事故対応や未然防止への取り組みを強化した。

また、緊急時対応マニュアルを整備し、各事業所へ配布した。

(4) 喜多見福祉作業所の本場化

平成 20 年の法内化以来、上町工房の分場として運営してきた喜多見福祉作業所について、ご家族からの要望もあり、本場化を推進した。喜多見福祉作業所から徒歩 8 分の場所に分室を設置し、本場 15 名、分室 10 名、合わせて定員 25 名で新たな事業所として指定を受け、名称を「喜多見夢工房」と変更して、平成 29 年 4 月 1 日より事業開始することとなった。

(5) 職員の労働環境の整備

メンタルヘルスケア対策の一環として、平成 27 年度に導入したストレスチェックを平成 28 年度も引き続き実施するとともに、管理職及び一般職員に向けてメンタルヘルスセミナーを開催し、メンタルヘルスケアを行った。

また、未払い残業代請求に関する労働問題をきっかけとして、残業時間削減プロジェクトを立ち上げ、業務の見直しや一斉休暇日の設置等について検討を行うなど、ライフワークバランスの実現に向けて職員の労働環境の整備に取り組んだ。

(6) 広報活動の充実と情報共有

障害理解の促進と寄付金募集のためのリーフレット作成により、郵便局を通して広く一般の

方々から法人への寄付が可能となり、長年の懸案事項であった寄付金募集についての仕組みを整えた。

また、職員、利用者及びご家族、外部機関等へ向けて、広報誌を春と秋の2回発行して情報提供を行うとともに、ホームページによる求人募集を行うなど、広報活動の充実を図った。

さらに、新たに職員向けに事務局通信を発行し、法人内の動向や運営方針について情報共有を図った。

(7) 介護保険法に基づく居宅介護事業の開始

利用者の高齢化に伴う介護保険へのスムーズな移行を目的として、平成28年12月1日付で、「相談支援センターあい」が介護保険法に基づく居宅介護事業を開始した。

(8) 内部会計監査

平成27年度に引き続き、須山監事による内部会計監査を実施した。平成28年度は大原福祉作業所、上町工房及びどんぐりホーム上町、喜多見福祉作業所の3事業所の巡回を依頼し、現金監査、売掛金一覧表の活用による自主生産事業の売上管理、領収書及び入金伝票の取扱い、財産目録の表示、利用者交通費の取扱い等、適正な会計処理に向けての指摘及びアドバイスを受けた。

6. 規程類の制定及び改正

規程等	主な内容	制定・改正日
出張旅費規程	業務命令に基づく出張に関する手続き	H28. 7. 1 制定
定款	介護保険事業の開始に伴う変更	H28.10.28 変更
安全衛生管理規程	定期健康診断に関する取扱い	H28. 12. 9 改正
給与規程	人事考課制度導入	H28. 12. 9 改正
育児・介護休業等に関する規則	介護休業の期間等、法改正に伴う改正	H29. 1. 1 改正
虐待対応規程	障害者虐待防止法の改正に伴う制定	H29. 2. 9 制定
組織規則	喜多見福祉作業所の名称変更	H29. 4. 1 改正
定款	社会福祉法制度改正に伴う変更	H29. 4. 1 変更
運営規程(上町工房)	喜多見の本場化に伴う変更	H29. 4. 1 改正
運営規程 (大原、用賀、どんぐり)	自立支援法から総合支援法への移行及び報酬改定による加算の創設に伴う変更等	H29. 4. 1 改正
運営規程(大原)	定員変更に伴う変更	H29. 4. 1 改正

7. 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会

開催日	審議事項	
第1回 H28.5.27	第1号議案 第2号議案	平成27年度事業報告について 平成27年度決算報告について
第2回 H28.10.12	第1号議案	「相談支援センターあい」の介護保険法に基づく事業指定申請及び定款変更について
第3回 H28.11.28	第1号議案 第2号議案	改正社会福祉法に基づく定款変更について 規程類の一部改正等について（給与規程、安全衛生管理規程、育児・介護休業等に関する規則）

第3回 H28.11.28	第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案	平成28年度上半期事業報告について 平成28年度上半期会計報告について 平成28年度第一次補正予算について 評議員選任・解任委員候補者の選任について 評議員候補者の推薦について
第4回 H29.1.11	第1号議案 第2号議案	喜多見本場化河野ビル改修工事の契約について 評議員選任・解任委員の報酬基準について
第5回 H29.2.9	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案	平成28年度第二次補正予算について 喜多見福祉作業所の本場化に伴う指定申請について 運営規程の改正について（上町工房） 規程類の制定及び改正について 施設長の任命について
第6回 H29.3.22	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案	平成28年度第三次補正予算について 平成29年度事業計画について 平成29年度予算について 管理者の任命について

(2) 評議員会

開催日	審議事項	
第1回 H28.5.27	第1号議案 第2号議案	平成27年度事業報告について 平成27年度決算報告について
第2回 H28.10.12	第1号議案	「相談支援センターあい」の介護保険法に基づく事業指定申請及び定款変更について
第3回 H28.11.28	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案	改正社会福祉法に基づく定款変更について 規程類の一部改正等について（給与規程、安全衛生管理規程、育児・介護休業等に関する規則） 平成28年度上半期事業報告について 平成28年度上半期会計報告について 平成28年度第一次補正予算について
第4回 H29.2.9	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案	平成28年度第二次補正予算について 喜多見福祉作業所の本場化に伴う指定申請について 運営規程の改正について（上町工房） 規程類の制定及び改正について
第5回 H29.3.22	第1号議案 第2号議案 第3号議案	平成28年度第三次補正予算について 平成29年度事業計画について 平成29年度予算について

(3) 評議員選任・解任委員会

開催日	審議事項	
第1回 H29.2.16	第1号議案	評議員の選任について

6. 委員会等の開催状況

<経営企画会議>

開催月日	主な検討項目
5月24日	喜多見福祉作業所の本場化、プレイ&リズム希望丘の事業方針等
7月12日	新規採用者の賞与、ミッションの見直し、相談支援センターあいの事業方針等
9月20日	ミッションの見直し、財務分析、喜多見福祉作業所本場化 他
11月16日	残業時間削減（提言）、法人への資金繰入 他

1月17日	残業時間削減（方針）、H28年度退職者の状況、仕事と育児の両立支援 他
3月8日	H28年度の主な検討事項、H29年度に向けての課題 他

<事業所連絡会>

開催月日	主な検討・報告項目
4月12日	委員会体制、事業報告様式、各種届出 他
5月10日	出張の取扱い、時間外労働 他
6月7日	通勤手当の申請、日当の取扱い、外部研修の講師依頼取扱い、備品台帳、他
7月5日	有期契約職員の雇入れ、業務委託契約の入札・プロポーザル 他
8月2日	津久井やまゆり園の事件、処遇改善加算実績報告 他
9月9日	事務・職務分担表の作成、人事考課、内部会計監査 他
10月4日	ミッション・サブミッションの見直し、残業時間の削減、昇格審査 他
11月1日	規程類の改正、賞与、内部監査報告、HS樫の木の養成研修 他
12月7日	サブミッションについて、法人本部への繰入金 他
1月11日	サブミッション、人事異動方針 他
2月7日	36協定及び時間外勤務計画・命令・報告書、仕事と育児の両立支援 他
3月10日	平成29年度処遇改善加算計画 他

<研修委員会>

開催月日	主な検討項目
5月24日	役割分担、階層別研修、法人セミナー、実践報告会 他
6月27日	階層別研修(初級職・中堅職)、資格取得支援 他
7月26日	階層別研修(初級職・中堅職・主任職)、資格取得支援、実践報告会 他
9月6日	" 新人職員研修(中途採用者)、資格取得(SDS)アンケート 他
10月18日	階層別研修(中堅職・主任職・管理職)、実践報告会 他
11月22日	"
12月19日	平成29年度研修計画 他
1月24日	" OJTマニュアル 他
2月15日	OJTマニュアル、平成29年度階層別研修、現場研修 他
3月22日	平成28年度研修委員会総括、平成29年度研修計画 他

<広報委員会>

開催月日	主な検討項目
6月9日	「かしの木」第19号の反省、ホームページへの掲載について
7月27日	「かしの木」第20号発行について・内容の詳細、発行までの日程
8月29日	内容の確定 各所の活動内容や商品・製品(作品)などを紹介
11月16日	寄付のリーフレットのレイアウトの最終案を作成
11月～3月	リーフレットは最終案の校正、印刷業者との交渉、振り込み取扱票の郵便局の認可を経て3月8日各関係者に配布

<リスクマネジメント委員会>

開催月日	主な検討項目
6月7日	リスクマネジメントと虐待防止体制のチェック表 他
8月8日	津久井やまゆり園の事件について 他
9月26日	第三者委員会の報告範囲・進め方・スケジュール 他
11月16日	第三者委員会の報告様式・事例選定 他

12月14日	第三者委員会の報告集計・分析事例確認 他
2月7日	第三者委員会の反省、SHEL分析、危機管理マニュアル作成
3月10日	危機管理マニュアル内容確認 他

<衛生委員会>

開催月日	主な検討項目
7月7日	ストレスチェック実施計画、セミナーの開催計画
8月9日	平成28年度「職場における心の健康づくり計画及びストレスチェック実施計画」について、ストレスチェックのフローチャート作成
9月15日	フォローアップ面接及びカウンセリングの周知について、管理職対象セミナーの内容について
10月13日	「職場における心の健康づくり及びストレスチェック実施計画」別紙の作成
1月12日	平成29年度「職場における心の健康づくり及びストレスチェック実施計画」について、一般職員対象セミナーの内容について
3月8日	セミナーの反省、平成29年度の検討課題について

<権利擁護委員会>

開催月日	主な検討項目
6月15日	行動規範を作成するにあたって、項目案を検討
8月4日	行動規範の具体的な内容について検討
9月8日	各項目の内容について検討し、案を作成
10月20日	2項目の内容について再検討し、案を作成
12月21日	行動規範（厳守事項）の3項目案の内容について検討
1月31日	厳守事項の2項目内容について検討し、案を作成
2月21日	前回検討した厳守事項の4～6の各項目の内容について再検討
3月24日	今までの行動規範（案）について再度検討し項目を確定

<人事制度検討委員会>

開催月日	主な検討項目
6月1日	考課者研修、業績考課の考課基準 他
7月13日	考課者研修の結果、後期の考課者研修 他
12月14日	前期調整会議の結果より、後期の考課者研修 他
2月13日	業績考課項目の見直し、考課者研修の結果より 他
3月24日	調整会議（後期）より、H29年度人事考課 他

<上町喜多見本場化委員会>

開催月日	主な検討項目
5月11日	タイムスケジュール作成、役割分担 他
6月24日	進捗状況確認、物件探し 他
7月13日	事業計画案作成、物件交渉 他
2月21日	事業所運営等の最終確認、他

- ・指定申請書類の作成、都庁指定担当者との折衝＝島澤
- ・物件探し、新事業所の事業計画の作成、利用調整実習生の受入、次年度補助金申請等＝安達
- ・物件探し・不動産屋等との契約交渉＝安斎・小野
- ・改修工事、消防等打ち合わせ、設計図の作成等＝管家建築計画工房

<事務連絡会議>

開催月日	主な内容
4月26日	平成28年度事業報告・決算報告
10月4日	平成28年度上半期事業報告・会計報告 他
2月24日	平成28年度補正予算、平成29年度事業計画・予算 他

<人事考課調整会議>

開催月日	主な内容
10月19日	平成28年度業績考課（前期分）
3月14日	平成28年度業績考課（後期分）及び行動能力考課

<第三者委員連絡会>

開催月日	主な内容
1月18日	事故・苦情等の報告、事例分析 他

<実践報告会運営委員会>

開催月日	主な内容
9月1日	平成28年度実践報告会実施要項 他
10月17日	発表日程及び発表者 他
11月14日	発表スケジュール及び役割分担 他

<残業時間削減プロジェクト>

開催月日	主な検討内容
10月18日	残業時間削減に向けて現状把握と取り組みについて
11月22日	業務の見直し、36協定、一斉休暇 他
12月22日	〃
2月16日	残業時間削減に向けて今後の方針

7. その他

<監査等>

開催月日	主な内容
5月11・12日	監事監査（事業報告・決算報告）
10月6日	内部会計監査（大原福祉作業所）
11月8日	内部会計監査（上町工房・どんぐりホーム上町）
12月14日	内部会計監査（喜多見福祉作業所）

<セミナー等>

開催月日	主な内容
4月25日	新人職員研修（4月採用者）「新人職員に伝えたいこと」他
5月26日	育成会新人職員研修「職場の常識、コミュニケーションの取り方、記録の書き方」
6月20日	育成会新人職員研修「障害者福祉を担うプロとなるために」
6月29日	考課者研修（管理職対象）
7月15日	階層別研修（初級職）「いいねずくめの職員になるために」
8月31日	新規採用職員説明会（6・7・9月採用者）

11月4日	階層別研修（中堅職）「サービス等利用計画と個別支援計画の連携」
12月7日	実践報告会「事業所紹介（前編）」
12月13日	メンタルヘルスセミナー（管理職対象）
12月20日	階層別研修（主任職）「法人の求める主任像を理解し、共有する」
1月24日	実践報告会「事業所紹介（後編）」
2月17日	階層別研修（管理職）「法人の求める管理職像を理解し、共有する」
2月24日	ポジティブ・メンタルヘルスの勧め Part2（一般職員対象）
3月28日	平成29年度新規採用職員 事前説明会

<制度改革関係>

開催月日	主な内容
8月9日	社会福祉法人制度改革の施行に係る留意事項等の説明会
12月16日	社会福祉法人制度改革の施行に係る説明会（財務諸表等電磁開示システム他）
1月19日	社会福祉法人制度改革の施行に係る説明会（監事対象）

<事故・苦情報告>

事業所名	区分	事故報告件数		苦情件数	
		27年度 総数	28年度 上半期	27年度 総数	28年度 上半期
千歳台福祉園		9 (2)	4 (0)	4	1 (1)
下馬福祉工房		7 (7)	10 (10)	2	1 (1)
わくわく祖師谷		9 (8)	0 (0)	1	2 (1)
大原福祉作業所		3 (3)	0 (0)	0	0 (0)
上町工房		3 (3)	0 (0)	3	1 (0)
どんぐりホーム上町		0 (0)	1 (0)	0	0 (0)
喜多見福祉作業所		4 (2)	0 (0)	1	1 (0)
用賀福祉作業所		2 (1)	4 (0)	2	3 (0)
ヘルパーステーション櫻の木		1 (0)	1 (0)	0	0 (0)
プレイ&リズム希望丘		1 (1)	0 (0)	0	0 (0)
相談支援センターあい		0 (0)	0 (0)	0	0 (0)
合 計		39 (27)	20 (10)	13 (0)	9 (3)

()内は世田谷区に報告した件数

()内は世田谷区に報告した件数

平成 28 年度事業報告

世田谷区立千歳台福祉園

【重点項目】

1. 支援の充実

- (1) 作業・余暇・機能訓練・クラブ・水泳・外出・宿泊などの活動を、計画的に、それぞれの利用者に合ったかたちで提供し、充実した生活につなげた。
- (2) 「安心した生活」「本人主体」の実現のため、意思決定支援についての研修に積極的に参加するとともに職員間で共有し、日々の支援に活かした。
- (3) より本人のニーズが反映された個別支援計画作成のために、職員間で話し合いを行うとともに、利用者に聞き取りを行うなどして、29 年度個別支援計画に反映させた。

2. 人材育成・業務改善の取り組み

- (1) 新人職員への引継ぎ分担当表を用い、計画的に O J T などを行い、育成につなげた。
- (2) 業務を行うにあたって、統一書式の業務分担当マニュアルを用い、業務の標準化を進めるとともに、年度末に業務ごとに見直しを行った。
- (3) 研修参加職員数：述べ 170 名（受講回数 54 回）
法人の研修制度のもと、個人別研修計画を作成し、計画的に研修を実施・受講するとともに、研修報告書の回覧や職員会議での研修報告による情報共有を行った。
- (4) O T ・ S T による技術指導を導入し、作業内容や食事介助についての知識を深め、助言に基づき見直しを行った。

3. 防災・安全管理の充実

- (1) 避難訓練：10 回
螺旋階段や滑り台を使用した避難や、エレベーターを使用しない避難を実施した。
- (2) 災害対策として、緊急時対応マニュアルを利用者家族及び職員に配布するとともに、利用者家族と災害時伝言ダイヤルや災害伝言板、メールでの連絡練習を行った。
- (3) 事故：利用者の怪我 3 件、誤薬 4 件、送迎バスの事故 2 件、職員等の怪我：3 件
ヒヤリハット報告：91 件
内訳：「他傷」31 件 34%、「ケアレスミス」16 件 17%、「転倒」13 件 14%、等
原因：「大丈夫だと思った」34 件、「見落とした」23 件、「無理をした」14 件、等
今後に活かすべく、ミーティングや回覧等で情報共有するとともに、サービス向上委員会で原因等を検討した。

【その他】

1. 家族等への支援・地域との連携

- (1) 家族会を 6 回開催し、事業の説明や情報の発信及び共有を行った。
- (2) 緊急時一時保護（宿泊）事業：4 回実施（7 月 3 名・1 月 1 名）
- (3) 短期入所施設を利用しやすくなるよう、送迎バスのルートに、短期入所施設への送迎を組み込み、計 6 施設への送迎を行った。
- (4) 地域の方々との交流の場として、また、地区会館で活動している各サークルの発表の場として、9 月 17 日（土）に園祭「秋桜祭」を地域の方々との協力で開催した。
- (5) 特別支援学校生徒保護者や他事業所職員等の施設見学者を 41 名受け入れた。

2. ボランティア・実習生の受け入れ

- (1) ボランティア人数：延べ 290 名（支援ボラ 194 名、行事ボラ 96 名）
- (2) ヘアカットボランティア：毎月 1 回（延べ 154 名利用）
- (3) 実習生等：特別支援学校等実習生 6 名、介護等体験生 17 名、介護福祉士実習生 4 名、高等学校福祉体験生 6 名。

3. 健康・食事の取り組み

- (1) 月 2 回の内科及び精神科診察、週 1 回の理学療法士による機能訓練を行った。また、健康診断、眼科検診、耳鼻科検診、歯科検診を実施した。
- (2) 試食会を 7 月・2 月に開催し、述べ 27 名の方が参加し好評を得た。また、嗜好調査を 9 月に実施し、試食会意見や調査結果を献立作成及び食事提供に活かした。

4. 事業評価の実施

- (1) 家族アンケートを実施した。74%の回収率で、「満足している」が 70%前後の項目が多く、概ね良い評価を得た。

事業評価

【重点項目】

1. 利用者支援・サービス等

(1) 作業支援

新規利用者 1 名、定員 35 名、登録者数 35 名、開所日数 243 日、利用率 89%

5 グループの内 4 グループの担当職員が変更となり、グループ運営が軌道に乗るのに時間がかかった。また、職員の育児休業・介護休業等があり、施設長・主任が現場に入らざるを得ない状況が続いたため、自主生産品の出張販売の回数減などにより、月平均工賃は 17,036 円であった。(昨年度 19,735 円)

(2) 行事等

一日の生活の中での朝体操や発表タイム、毎月行う誕生会・給料買い物・お茶会、季節のイベントや旅行など、就労生活の中に充実感や明日への期待を持てる活動を盛り込み、第三者評価の利用者聞き取り調査では満足度 90% と高い評価を得られた。

2. 地域交流の充実

(1) 外来者の受け入れ

- ・見学者、ボランティア (延べ 285 名)
- ・介護等体験 (9 名)、インターンシップ (2 名)、企業研修 (7 名)
- ・特別支援学校実習生 (10 名)
- ・中学生の職場体験 (9 名)、高校生の福祉体験 (5 名)

(2) 地域へ出ていく活動

- ・焼き菓子販売 (企業 18 回・地域のイベント 18 回)
- ・焼き菓子及び受託作業の納品、公園清掃
- ・給料買い物、お茶会 (地元商店の利用)

(3) 所外実習 (喫茶びあ鎌田店 3 名、喫茶 J O Y 7 名、区役所 1 名)

(4) おたがいさまフェスタ (来場者 700 名)、クッキー教室やゲーム大会を実施

【その他】

1. 第三者評価の受審

(1) 特に良い点

- ・利用者一人ひとりを職員全員が共通理解する姿勢を持って支援している。
- ・地域に出る機会、外来者を受け入れる機会を多く持ち、自然な交流がある。
- ・事故対応について、区の専門家等のアドバイスを得て対応している。

(2) 改善が望まれる点

- ・事業所の理念と方針に基づいた業務の基準書や手引きのさらなる整備
- ・アートなど利用者の能力を活用した新たな自主生産品の開発による工賃アップ
- ・法人の研修制度や人事考課制度に則った人材育成及び組織管理体制の確立

2. 事故・苦情への対応

事故 12 件 (対人 5 件、対物 2 件、トイレ詰まり 4 件、メール 1 件)

苦情 1 件 (工房の管理運営について) ヒヤリハット 32 件

事故・苦情については、家族及び世田谷区・法人への連絡を徹底した。また、再発防止に向けて、世田谷区障害者地域生活課の心理士にケース会議に参加していただき (毎月 2 回)、職員全員で利用者理解を深め、対応策を検討した。

【重点項目】

＜全体＞

1. 御家族からの信頼回復

年度当初に施設長・主任・職員の異動に加え主任の退職などもあり、ご家族から職員の定着率の悪さを指摘されるなど、法人、事業所に対する不安や不信感を訴える声が多く聞かれた。法人、わくわく祖師谷に対する信頼感を回復するために、ご家族との連携の強化を図り、利用者さんの生活状況及び情報交換をより丁寧に行うなど、ご家族に対する支援を強化した。

2. 事業費を節約し職場環境の整備、質の高いサービスを目指す

業務・サービス内容の整理と見直しによる効率的運営を行うとともに、業務の標準化を進めることで、超過勤務を減らしてきた。残業時間の削減や職員の地道な努力の結果、水道光熱費を昨年度比 18%（70万円）減額することが出来た。削減できた予算を利用し職場環境の整備や質の高いサービスを目指した。

3. 社会福祉士実習・介護等体験学生の受け入れ

昨年度まで行われていなかった、社会福祉士実習を受け入れると共に、介護等体験生を受け入れた。障害者に対する理解を深めてもらうと共に、地域に開かれた事業所作りを目指して、研修、見学、実習生等を受け入れた。実習に来た学生には、卒業後の就職先として検討してもらえよう話をしている。

＜生活介護＞

1. 各種行事の充実・業務の標準化

昨年度も行われていた、外出、宿泊旅行、体験宿泊等の行事の充実を図ると共に業務の標準化を目指した。また、次年度からどの行事もスムーズ行えるためにマニュアル化を進め、業務の標準化を図っている。

2. 個々に合わせた支援を大切にしたい

支援においては、昨年度重視されてきた視覚的な支援を見直し、利用者の方の気持ちに寄り添い個々の障害特性を理解することから始め、それから個々に合わせた視覚的支援などを大切にしたい。

＜就労継続支援（B型）＞

1. 自主生産品の開拓・作業種目の拡大、工賃の良い受託の確保

自主生産品の開拓のために、パン製造が終了した午後のオープンを使い焼き菓子製造を始めた。焼き菓子は毎週農協に納品している。焼き菓子製造を始めたことで、利用者さんが行う作業種目も増えている。また、できるだけ工賃の高い受注業者を探して受注したが、なかなか成果が出せなかった。

【その他】

1. 第三者評価受審

総合的な評価では「大変満足」が 16.4%、「満足」が 63.9%と、「大変満足」及び「満足」の回答が 80.3%という結果となり、8割以上の利用者が満足している様子が窺えます。一方、「職員の退職が続く、原因は何なのか不安に思います。」「主張できる利用者ばかりでなく、待たされている利用者もいる事を考えてほしいです。」という意見もありました。

平成 28 年度事業報告

大原福祉作業所

【重点項目】

1. 利用者支援・サービス等

(1) 作業支援

年間平均工賃支給額の増額と作業種目の多様化。

- ・平均工賃：14,984 円（昨年度：14,783 円、+201 円）
- ・受託作業種を大幅に見直し、単価が低く短納期の企業 1 社との取引を止め、比較的単価の高い企業 1 社を開拓することで、受託作業の収入が平成 27 年度に比べ 28 万円増加した。
- ・作業種を切り替えたことにより、多くの利用者が関われる作業が増えたと同時に作業時間に余裕ができた分、利用者の作業能力の向上を個別に支援することができ、利用者ができる作業が増えた。

(2) 生活支援

- ・9月の秋まつりで昨年に引き続き喫茶店を行い、メニューを増やし、練習を計画的に行うことで個々の利用者が積極的に参加できた。またキーボード演奏など利用者の特技を活かした企画を行った。200名を超える集客があった。
- ・日帰りレクでは初めてバス2台を利用することで、相性の悪い利用者と一緒にいることが辛くて今まで参加できなかった利用者が参加することができた。
- ・新規利用者2名が安心できる環境に配慮し、1年を通して安定して通所できた。

(3) 個別支援計画

2月中に28年度個別支援計画評価と29年度個別支援計画を作成し、利用者・家族と面談を持つことで、安心して利用者が29年度を迎えられる体制を整えた。

2. 関係機関との連携、地域貢献、地域交流等

- (1) 代田地区社協等を通じて地域の民生委員、町会長、商店会など数十名との勉強会、見学会などを実施して地域との関係を作り、障害者への理解を深めた。
- (2) 初めて社会福祉士実習生（昭和女子大）1名を23日間受け入れた。
- (3) 普連土学園などの学生ボランティアを受け入れ、社会の障害理解を促進した。

3. 家庭との連携・家族支援等

- (1) 7月、2～3月の2回、全利用者・家族と面談を実施した。
- (2) 家族会を7回実施した。
- (3) 6月に家族に向けて作業所公開日を設定し実施した。

4. 人材育成・職員研修等

- (1) 職員2名がサービス管理責任者の講習を受講し資格を取得した。
- (2) 職員2名が都と区の障害者相談支援従事者初任者研修を受講した。
- (3) 所長が全社協の「社会福祉施設長認定講習課程」を受講し終了した。

5. 職場環境の整備、経営基盤の強化、施設整備等

- (1) 受託作業種の切り替え、会議の効率化を図り、職員の時間外勤務を削減した。
- (2) 29年度の利用者3名増を受け、区と交渉し定員31名の予算を確保した。
- (3) 31年度の施設移転に向け、10月に本人・家族アンケートをとり、世田谷区の説明会を開いて、本人・家族と情報を共有しつつ計画的に準備を進めた。

6. 苦情・事故

1年を通して区に報告した事故はなかった。ヒヤリハット 37 件、苦情 12 件

事業
評価

事業
評価

【重点項目】

1. 事業計画の定着と安定化

事業計画、利用者一人ひとりのアセスメント、個別支援計画を共有する機会を持ち、利用者支援に取り組んだ。結果、目標としていた事故 0 を達成した。

2. 自主生産品の販売強化、工賃基準の確保

自主生産品作りを本格化させ新たな商品を開発、販売機会を増やし売り上げを増やした。支給者数が増えたこともあり、前年度並みの伸びとはいかなかったが、27 年度に大幅に上がった工賃基準を一定程度確保できた。

3. グランサマーフェスの開催

利用者、家族会から要望が出ていた事業所祭をグランサマーフェスと名付け開催し、成功に終わらせた。

4. 4つの柱（①働く②健康③仲間作り④余暇支援）で、支援を実施

- ① 働く＝新たな自主生産品、ドライフルーツ・季節のジャムを開発し作業種を増やした。自主・受託・清掃の3分野で前年度よりも収益が増加した。利用者が3名増加したこともあり、平均工賃支給額は2000円強増加した前年度に比べ999円となってしまったが、14,765円とある程度の数字を残すことができた。

	28年度	27年度	26年度
支給総額	4,090,010	3,592,217	2,959,470
支給者数	277	226	222
平均工賃	14,765	15,764	13,391

- ② 健康＝日課に体操やストレッチ等の運動の時間、外部講師による3B体操、総福PT指導を組み入れ、身体機能の維持向上や生活習慣病対策を行った。フラダンスの練習は毎朝行った。
- ③ 仲間作り・余暇支援＝利用者の主体性が発揮できるようクローズアップを取り入れた所内行事を増やし余暇支援を充実させ、メリハリのある事業所運営を行った。(行事回数 31回)

5. 介護等体験学生・インターンシップ学生の受け入れ

開かれた施設、自分たちの支援を常に見られる環境を作り、知的障害に対する理解を深めてもらうことを目的に介護等体験学生や東京都インターンシップ学生の受け入れを行った。
介護等体験学生＝24名 インターンシップ学生＝6名

6. 個別支援計画の見直しと期間の標準化

作成から面談とすべて時期がずれてしまっていた個別支援計画の作成、面談時期の修正を行った。29年度以降は3月に評価と次年度計画作成、9月にモニタリング3月に面談と正常になる。

【その他】

1. 苦情・事故について

28年度は苦情1件（職員退職に関する苦情）、事故報告は0件となった。事故報告数は26年度6件、27年度5件から大幅に減らすことができ、重点目標を達成できた。

平成 28 年度事業報告

どんぐりホーム上町・短期入所どんぐりホーム上町

【重点項目】

1.GH 利用者の入れ替えがあったが、滞りなく支援が行えた

精神疾患が悪化し通所できなかった利用者は精神病院に入院となり、その後も入退院を繰り返したことから、関係者会議の結果 11 月末日で退所となった。空室の追加募集に 4 名の申し込みがあり、利用調整の結果、千歳台福祉園に通う 1 名が 12 月より新たに入所した。

2.GH 利用者を取り巻く環境の変化が多く起こり、生活スタイルに大きな変化が生じた

入居者自身の問題、入所者家族の問題などで、週末実家で過ごすことのできない利用者が増加し、これまで人員配置のなかった休日日中も支援者の確保が必要となり支援を行った。

3.SS 契約者、利用率が大幅に増加した

28 年度は新たに 32 名と契約し、49 名だった登録者は 81 名と大幅に増加した。契約者の 8 割の 65 名が障害支援区分 4 以上の重度者になり、毎月 25 名程度が利用している。

利用者が増えたことで利用率も増加し、27 年度平均利用率 57%を上回り 68%の稼働率となった。

障害支援区分重度者の受入も年間 300 日を予定していたところ、349 日受け入れられた。

短期入所どんぐりホーム上町（短期入所）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数	25	20	24	24	27	22	
サービス提供回数	43	39	44	41	39	37	
内区分4以上重度者	29	23	30	32	30	26	
利用率（%）	72	63	73	66	63	62	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	23	28	25	25	28	31	302
サービス提供回数	40	41	42	36	44	50	496
内区分4以上重度者	33	29	30	26	30	31	349
利用率（%）	65	68	68	58	79	81	68

【その他】

1. 苦情・事故について

SS では夜勤者の支援力不足が原因の事故が 6 件起きた。

引継ぎミス・服薬ミス・見守り促しミス・夜勤者寝坊による利用者の遅刻・シフト忘れヒヤリハットは 31 件が提出された。

2. 職員に十分な支援力が伴わず人員配置で苦労を強いられた。

欠員の正規職員 1 名は確保できたが、宿泊に支援が必要な利用者も増加し、登録夜勤スタッフの支援力では十分に対応できない方も多く、シフト作成に苦労した。

事業評価

平成 28 年度事業報告

上町工房分場喜多見福祉作業所

事業
評
価

【重点項目】

1. 利用者支援

- (1)個別支援計画に基づいた支援を基本として、変化に気づいた時やモニタリングや面談後の職員への報告を行い、利用者の生活状況の把握に努めた。
- (2)状況によりご家族も一緒に面談の場が必要と感じた場合も、家庭と作業所で互いに連絡を取り合い、理解を深めた上で以後の利用者支援へと繋いだ。

2. 関係機関との連携

- (1)利用者のケース会議には、担当ケースワーカーや相談専門員にも参加していただけたことにより情報の共有や連携できた良さがあり、支援の分担が図れた。

3. 家族支援

- (1)ご家族の高齢化に伴う負傷や発病等で緊急入院するケースがあり、地域資源が連絡しあって、安心して事業所に通い続けることができた（4例）。

4. 目標工賃達成の取組み

- (1)総収入 7,999,436 円（前年比 88.3 %）
- (2)内訳 ①自主生産・焼き菓子 6,393,828 円
②受託加工・封入封緘 474,293 円
③官公需・公園清掃 1,131,315 円
- (3)工賃 一人あたり 24,192 円/月
- (4)特徴 今年度の総収入が落ちた理由として「土日のイベント販売を数か所減らした」ことが大きい。本来勤務を要しない日に勤務させた場合の対応が厳しかったことによる。
- (5)新規開拓 総収入の低下を知り、①新製品の開発 ②喫茶店で新規に使用 等の取組みを急いだ。

【その他】

1. 本場化に向けた取組み～経営基盤の強化・施設整備

- (1)物件確保と契約
- (2)近隣・地域への挨拶と改修工事
- (3)都への相談と指定
- (4)内覧会 等を経て、次年度からの新体制が実現した。

2. 地域との交流

- (1)本場化の取組みを通して、地域の街づくりセンター、町会、商店振興会、近隣の方々と知り合う機会となった。
- (2)「喜多見ゆめ通信」春号を発行し、事業所の姿を地域にお知らせした。

平成 28 年度事業報告

用賀福祉作業所

事業
評価

【重点項目】

1. 利用者支援・サービス等

[利用率 (昨年度比)] 88.4% (前年比+6.2%)

[平均工賃 (昨年度比)] 14,239 円 (前年比+58 円)

- (1) 利用者のニーズや実態等を把握するためにフェースシート、緊急連絡カード、個別支援計画等の様式も含めた見直しを行い次年度に向けての準備を進めた。
- (2) ここ数年行っていなかった所外実習に、1 名の方が挑戦された。また同時に喫茶応援も実施した。
- (3) 自主生産品の販路 (都庁等) 拡大を行った。

2. 関係機関との連携、地域貢献、地域交流

- (1) 地域の町会、商店街等との関係は前年度と同様に地域の販売に出店し、自主生産の大口注文を受注した。(陽果会チャリティーコンサート等 計 7 回出店)
- (2) 近隣住民の方が見学しボランティアの登録をされたが活動までは至らなかった。
- (3) 玉川支援ねっと主催の研修・職員交流会 2 名の職員が参加した。

3. 家庭との連携、家族支援等

- (1) 家族会は前年度と同じペースで計 7 回行った。(4・6・7・10・12・1・3 月)
また、アンケートを実施し次年度事業計画の参考とした。
- (2) ご本人、ご家族、事業所の 3 者で個別支援計画の話し合いを行うとともに計画・評価の了承を得た。
- (3) 保健センター、グループホームと連携をとり利用者支援の情報共有をした。
- (4) 各サービスの更新等の際、場所の提供や個別にご家族の協力をした。

4. 人材育成、職員研修等

- (1) 年度当初、個別に立てた研修計画に基づいて研修に参加した。
(法人外研修：16 回、17 名参加 法人内研修：8 回、12 名参加)

5. 職場環境の整備、経営基盤の強化、施設整備等

- (1) 有期契約職員を 1 名増員したことにより、利用者へよりよいサービスの提供が図れた。
- (2) 利用者の安全確保も含めたサービスの向上のため、整理整頓や作業環境の見直しを行った。
- (3) 防災等危機管理
 - ①相模原事件を受け、防犯グッズを購入するなどの対策を行った。
 - ②防災備蓄品や簡易土嚢を購入し、自然災害時の対策準備を行った。

6. 事故・苦情

- ・事故、苦情ともになかった。

【重点項目】**1. 現在派遣を行っている利用者への支援維持と新規利用者への派遣**

- (1) 年度当初での人事異動に伴い、職員の派遣体制の見直しを行なった。また、年度途中でも核となる正規職員が支援に入れなくなることから、再度派遣体制の見直しを行ない、有期職員の雇用、利用者支援の引継ぎなどを段階的に進めることで、現在派遣を実施している利用者に対して、派遣が途切れることはなかった。
- (2) ホームヘルプは毎週固定の利用があるため、ヘルパーの確保が前提となる。派遣体制の見直しを進めながら、ヘルパーの確保を行ない、3名の方と新規利用契約を結び、支援を提供した。新規利用者の長期入院、単身生活者の支給時間数の減少などもあり、ホームヘルプの年間総派遣時間は2,865時間となった。
- (3) ガイドヘルプに関しては利用者の呼び戻しや新規利用者の開拓が課題ではあったが、年度初頭から取り組むことは、現行の派遣の維持に重点をおいたため難しかった。年間を通じて8名の方と新規利用契約を行なった。ヘルパー派遣実施にあたっては、在籍している登録ヘルパーに対して同行研修を行ない、新たに5名の方に定期的なヘルパー派遣が提供できた。また、一人の利用者を複数のヘルパーが支えられるように、新規ヘルパーの紹介や同行研修を行ない、延べ35名の利用者に対して、新しいヘルパーの紹介を行なった。新しいヘルパーを紹介できたことで、年度後半になり派遣時間数も増加傾向が見られ、年間派遣時間数は7,861時間となった。

2. 関係機関との連携、地域交流など

相談支援事業所との連携により、ホームヘルプ3名、ガイドヘルプ3名との新規利用契約を行なった。自立支援協議会への参加は2回となり、事業所間のネットワーク構築が十分にできなかった。

3. 人材育成、職員研修など

派遣体制を維持していくことに重点を置いたため、研修の受講も日程調整を行ない受講可能なものに限定して受講した。職員に関しては前期に利用者支援に対応するための研修、後期に苦情解決研修に参加した。

人材育成の一環として、ヘルパーの活動報告書の改訂を行なった。報告書では新たに「支援で気になったこと、迷ったこと」などの記入欄を設け、ヘルパー一人一人の声を拾い、対応したことで、ヘルパーのスキルアップを図った。

【その他】**1. 主体的に支援を提供できる知的障害児者支援に特化したヘルパーの養成**

平成28年度も「東京都知的障害者移動支援従業者養成研修課程」を開講し、知的障害者支援に特化したガイドヘルパーの養成を行なった。6月に自主研修、7・9・11・1月に世田谷区からの委託研修を実施し、自主研修では1名、委託研修では86名のガイドヘルパーを新たに育成した。修了者のうち、ヘルパーステーション檜の木には6名の方が登録し、3名の方に対して、利用者との顔合わせや職員の同行研修などを実施し、定期的なサービス提供を行なっている。

2. 事故・苦情など

年間を通じて、東京都及び世田谷区に報告する事故・苦情はなかった。

平成 28 年度事業報告

プレイ&リズム希望丘

【重点項目】

1. 事業別評価

児童発達支援事業は未就園児のニーズが高く、年度途中に入院等による休会者を 3 名抱えたにも関わらず、前年度に比べ延利用人数 187 名増となった。

一方で、放課後等デイサービス事業は夏休みの需要が増えなくなったこと、新規利用者獲得が難しくなっていること、年度初めに入所による退会者を 1 名出したことにより、前年度比延 216 名減となった。

2. サービスの質の向上

児童発達支援事業において着替えの指導を取り入れ、着替えの手順が身に付くようご家庭と連携して支援を行なった。

放課後等デイサービス事業では、法人の特色を生かした新たな取り組みとして、夏休みにわくわく祖師谷において作業所体験ツアーを計 3 回行ない、延 14 名が参加した。また、日々の療育プログラムでは、従来の内容に加え身体を動かす「エアロビクスプログラム」を導入した。

3. 人材育成への取り組み

常勤職員（正規 2・有期 3）の個別研修計画を策定し、学校等訪問、法人セミナーを含む研修に延 15 名が参加した。人手不足に悩んだ前年度と比べ研修受講実績は大幅に改善されたが、新人職員の研修が優先され、受講機会には偏りが見られた。

4. 防災及び危機管理への取り組み

新たに防災小委員会及び危機管理小委員会を立ち上げ、常勤職員（正規・有期）5 名が参加した。防災小委員会は上半期に避難訓練 5 日間、下半期は子ども達と非常食であるアルファ化米を実際に作って試食するという新たな取り組みを行なった。危機管理小委員会は、リスクマネジメントセルフチェック表の整備及びヒヤリハット集作成に取り組んだ。特にヒヤリハットは非常勤職員を含む全職員が細かな気付きを挙げる取り組みを行ない、トランポリンの経年劣化部分が 1~2 歳児には危ないという新たな視点が挙げられたことで、助成金を通して買い替えを行なった。

5. 職場環境の整備

事務簡素化（紙面に記録していたものの電子化・データの共有化等）を行なったこと及び保護者宛での請求書類を一部法人事務局で行なうことに変更した為、支援員の事務負担が減り、時間外労働が職員一人あたり月平均 3.7 時間削減した。また、子どもの利用時間に合わせた勤務時間を新設したことで、現場の人手不足解消に取り組んだ。

6. 事故・苦情

なし

事業
評価

平成 28 年度事業報告

相談支援センターあい

【重点項目】

1. 契約者の増員

契約者数（世田谷区外 31 名、物故 3 名含む）

（単位：人）

相談支援事業	契約者数 187（男 113 女 74）	年度当初との差異（+17）
障害児相談支援事業	契約者数 11（男 6 女 5）	年度当初との差異（0）
居宅介護事業	契約者 1（男 0 女 1）	年度当初との差異（+1）

平成 28 年度計画新規契約者は 12 名であったが、今年度は 17 名の増員となった。

これに伴い、契約者数は合計 198 名となっている。

居宅介護事業は平成 28 年 12 月 1 日より開始で契約者 1 名。

2. 計画作成実績・モニタリング実績の増加

- ・計画作成実績 186 名（新規作成 32 名 + 更新 154 名） 居宅 1 名
- ・モニタリング実績 355 回 居宅 2 回

通所サービス利用開始が 4 月となり、3 月に受給者証が更新になる方が多く、モニタリング時期の 9 月、3 月が繁忙期となった。特に 3 月は 1 年毎の方のモニタリングが入る為、モニタリング及び計画更新が合わせて 92 件となった。

3. 地域と関係機関の連携及び強化

- (1) 世田谷自立支援協議会本会に参画した。
- (2) 自立支援協議会虐待防止、差別解消権、利権部会の運営委員会と部会に参画した。
- (3) 砧エリア自立支援協議会の運営委員会と部会に参画した。
- (4) 経堂地区包括ケア会議へ参加した。

これらの会に出席する事で地域の介護保険事業者や、社会福祉協議会等分野が違う方々との関係作りを行った。

【その他】

1. 相談支援事業の現状と今年度の実績

- (1) 介護保険適用除外施設に入所されている方々の、高齢者施設への移行に向け、施設見学、介護認定申請等の支援を行った。住宅改修をした息子夫婦の自宅に帰った方もいた。それらの方々へ移行支援を行った。
- (2) 居宅介護事業の認定を都より受け、65 歳を過ぎた方にも相談支援センターあいでも継続してサービスを受けられるようにする事で、制度の切り替え問題を円滑に出来るような仕組みを作った。
- (3) 祖師谷あんしんすこやかセンター移転に伴い空室となったふれあいセンター 3 階に、平成 29 年 1 月 4 日付で転居した。それまでわくわく祖師谷 B 型事業所内を来訪者が通っていたが、3 階となり、相談室も個室となり、更に相談スペースも設けられたことで、来訪者のプライバシーの確保が出来た。

事業評価